

海域の概要

本湖は、外海と砂嘴によって隔てられている汽水湖で、湖岸長 16.95 km、面積 4.95 km² と新潟県内で最大の湖です。カキの養殖が盛んで、生産量は 2,000 トン以上となっています。



Specification

諸元

湾口幅：0.03 km

面積：4.95 km²

湾内最大水深：8.7 m

湾口最大水深：5.5 m

閉鎖度指標：1.1731

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

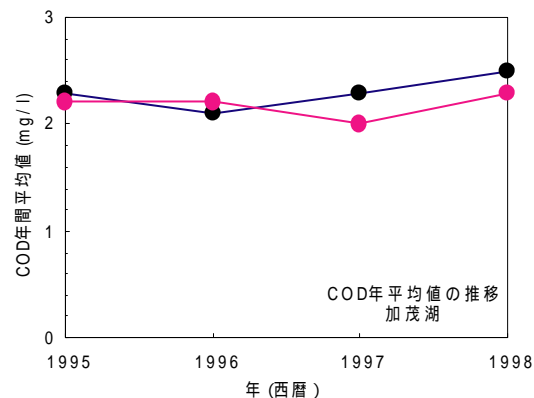
新潟県両津市及び佐渡郡新穂村。



環境

加茂湖の水質を環境基準で評価すると COD、DO はB 類型を満足して推移していますが、pH や大腸菌群数に関して一部で不適がみられることもあります。

流入する長江川、天王川などの主要河川の水質悪化により、湖内の環境が悪化してきたため、近年は、底層水を攪拌し、貧酸素水塊の形成を抑える措置などがとられています。



自然

加茂湖は、両津湾と砂州上に形成された両津の街によって隔てられた汽水湖で、周辺の海岸段丘とカキ棚が浮かぶ静かな湖面により良好な景観を形成しています。

湖岸付近にはアマモ場が分布し、湖内の生物のすみかとなっています。

鳥獣保護区に指定され、湖内に住みついたコブ白鳥のほか、カモ類やサギ類が数多く生息し、バードウォッチングに最適です。

また、湖の西側の新穂村は、国際保護鳥のトキの生息地として有名で、トキの見学を含めて佐渡へ来る観光客が多くなっています。最近では、絶滅寸前までになりましたが、中国からの贈呈された2羽により雛が誕生しています。



加茂湖の白鳥

文化歴史

加茂湖は、明治 36 年に水害を防ぐため湖口を広げ、海とつながった汽水湖です。

湖岸周辺には、佐渡の伝統芸能である新能「道成寺」が上演されている佐渡能楽の里、本間家能舞台がある他、佐渡の漁具や民芸を展示している郷土博物館が存在します。



新能

産業

加茂湖の水産業は、カキが主力です。現在、加茂湖水産業を活性化するために密集市街地に隣接する両津漁港の多機能型の漁港としての整備が進められています。

また、佐渡観光の核ともなっており、両津港から、加茂湖一周の遊覧船が運航されています。



トキ